

# 名古屋地区サロンに参加して

桑名 梶野 昇 (本町四丁目出身)

一昨年の愛知地球博以来、ミッドランド・スクエアを始めとして名古屋駅の周りには新しいビルが立ち並んでいます。その中心にあるマリOTT・アソシアホテルの一五階において去る九月二十九日に第八回の名古屋サロンが開催されました。東京からは会長の和久井さんと運営委員の内藤さん、上越からは渡邊さんが参加されました。

私ども夫婦は高田、新井の出身で、現在は三重県の桑名に住んでいます。二人で参加させていただきました。このサロンには一昨年に続き二回目の出席でしたが、楽しいひと時を過ごしました。今回は五〇名近くの出席者があり盛会でしたが、会話できるのはどうしても限られた方々だけなのが残念でした。幸い、尾原さん、渡邊さんや名古屋に住む義妹の金子さんが同じテーブルで色々な話を伺うことが

できました。初めて参加の小山さん、知人の深沢さん、藤巻さん、お兄さんが私と高校同期の藤さんとも懇談できました。

親鸞の居多が浜への遠流八百年、NHKの大河ドラマ「風林火山」の上杉謙信役、ガクトが上越でパレードをしたこと、再来年〇九年の大河ドラマ「天地人」では直江兼継が主人公になるなど上越と関係の深い話題は尽きません。他の皆さんも住まいはバラバラでも同郷のよしみでそれぞれのテーブルで歓談されている様子が見えました。

ローカル話になりますが、大阪に住む叔父の高田中学同窓の太田さん(相談役)から桑名と上越のつながりの話が出ました。最近、「うるるは走る」と言う童話にもなりましたが、「桑名日記・柏崎日記」として記録に残るもので、以前NHKで江戸時代の単身赴任としてドラマ「幕

末転勤録」にも取り上げられたのをご存知の方も多いと思います。一八四〇年前後、柏崎へ単身赴任した武士、渡部勝之助と桑名に残った子供を預かる祖父、平太夫政通の間で互いに十年間ほとんど毎日書いて交換した手紙が四〇〇字詰め原稿用紙に換算すると五、三〇〇枚にも及ぶ膨大なものだったようです。この日記はほぼ一ヶ月毎に桑名藩江戸下屋敷を経由して飛脚によって運ばれ、遅いときには三ヶ月もかかったそうです。余談ですが、高田には桑名藩出身の方がいると伺っていますが、皆さんの中にもおられませんか。

(因みに桑名藩第三代城主、松平定重が一七二〇年に越後高田藩主となり、その数代後に移封された白河で老中となった松平定信が自分の息子、定永を一八二三年に桑名藩主にしたと言う。柏崎が桑名藩の飛び地になったのはその頃と思われる。)

「ふるさととは遠くにありて思うもの」と言うのは今は昔、名古屋からは電車や車で、四、五時間ほどで上越へ行くことができます。しかし、毎年一回ではあります。このようにサロンで一堂に会してお互いの健康を祝い、生の情報を交換することは大変な喜びです。次回はさらに色々な方々と交流したいと思っています。



梶野さん (左)

幹事の尾原さんには出席者の把握、会場の設営に大変苦労された伺いました。最後になりましたが、本当に有難うございました。

参考①

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~t10/michikusa/kuwananikki.htm>

参考②

<http://ja.wikipedia.org/wiki/>

